

令和 7 年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率（北陸）

- 北陸の農作物作付（栽培）延べ面積は 26 万 5,400ha で、水稻（子実用）が 76%を占める。
- 北陸の耕地利用率は 88.5%で、前年に比べ 0.1 ポイント上昇。

令和 8 年 9 月 29 日公表

1 農作物作付（栽培）延べ面積

北陸における令和 7 年の農作物作付（栽培）延べ面積は 26 万 5, 400ha で、前年に比べ 2, 200ha 減少した。

図 1 令和 7 年農作物作付（栽培）延べ面積（北陸）

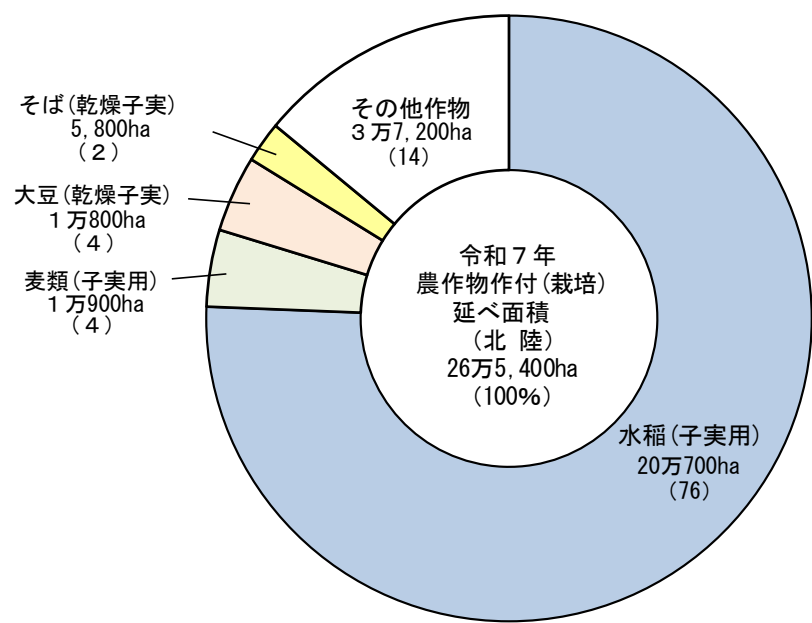


表 1 令和 7 年農作物作付（栽培）延べ面積（北陸・県）

単位：ha

北陸・県	作付(栽培) 延べ面積		水稻 (子実用)		麦類 (子実用)		大豆 (乾燥子実)		そば (乾燥子実)		その他作物	
	実数	対前年差	実数	対前年差	実数	対前年差	実数	対前年差	実数	対前年差	実数	対前年差
北 陸	265,400	△ 2,200	200,700	3,700	10,900	△ 400	10,800	△ 1,500	5,800	△ 180	37,200	△ 3,900
新 潟	142,500	△ 900	117,700	1,500	387	x	3,650	△ 580	1,200	△ 100	19,500	△ 1,900
富 山	51,000	△ 400	35,600	600	3,630	△ 100	4,180	△ 370	586	△ 6	7,050	△ 540
石 川	31,600	△ 500	22,900	600	1,750	△ 210	1,350	△ 300	378	△ 15	5,220	△ 540
福 井	40,300	△ 400	24,500	1,000	5,150	△ 180	1,620	△ 230	3,630	△ 60	5,420	△ 940

注： 1 麦類（子実用）は、作物統計調査で把握した小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦の作付面積（公表値）を積み上げて算出したものである。
2 その他作物は、陸稻、かんしょ、小豆、いんげん、らっかせい、なたね、果樹、茶、野菜、花き、飼料作物等である。
3 「子実用」とは、主に食用にすること（子実生産）を目的とするものをいう。
4 「乾燥子実」とは、主に食用を目的に作付けし収穫した子実であって、未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ等）、景観形成用として作付けしたものを除いたものをいう。
5 統計数値については四捨五入しており、北陸値と内訳の計が一致しない場合がある。
6 「X」は、生産者が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示としている。
なお、全体（計）からの差引きにより、秘匿措置を講じた当該結果が推定できる場合には、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」としている。

2 耕地利用率

北陸における令和7年の耕地利用率は88.5%で、前年に比べ0.1ポイント上昇した。

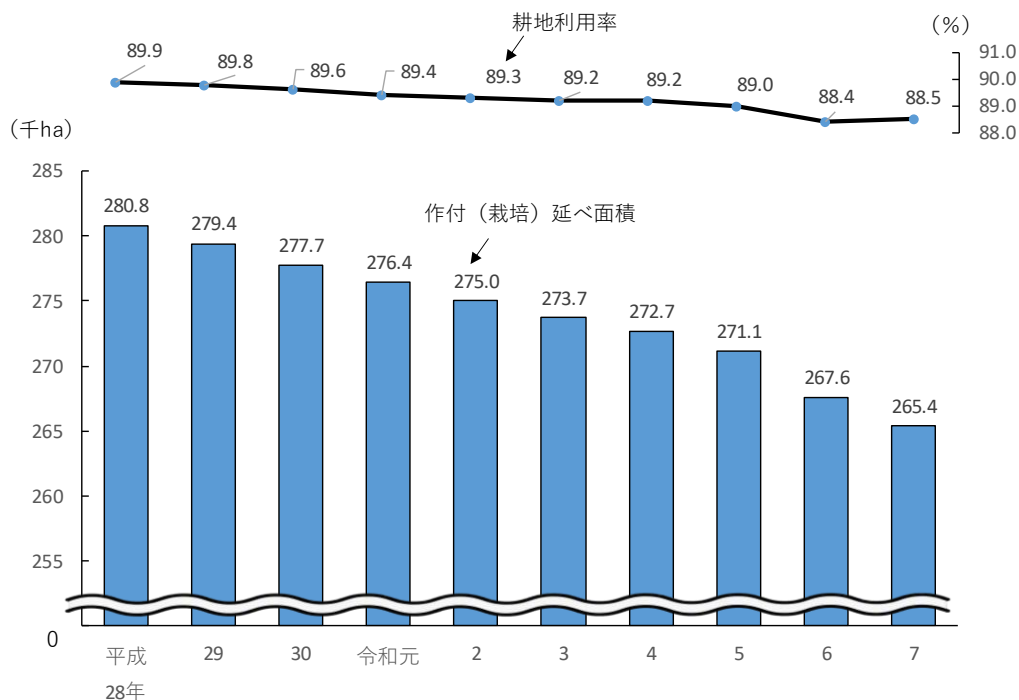
福井県の耕地利用率は102.5%で、全国5位であった。福井県は、六条大麦の作付面積が全国1位となっており、収穫後にそば、大豆等を作付けしていることで、耕地利用率が高くなっている。

表2 令和7年耕地利用率（田畑計）

全国・北陸 ・県	耕地利用率			耕地面積	作付(栽培) 延べ面積
	実数	対前年差	全国順位		
	%	ポイント		ha	ha
全 国	90.1	△ 0.3	—	4,239,000	3,821,000
北 陸	88.5	0.1	—	299,900	265,400
新 潟	85.8	△ 0.3	22	166,000	142,500
富 山	89.5	0.0	17	57,000	51,000
石 川	84.0	2.7	27	37,600	31,600
福 井	102.5	△ 0.5	5	39,300	40,300

注：耕地利用率（%）＝作付（栽培）延べ面積÷耕地面積×100

図2 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移（田畑計）



【問合せ先】

北陸農政局統計部 生産流通消費統計課
(直通) 076-232-4895